

2022年4月吉日

幼稚園保護者の皆さまへ

学校法人いいつな学園事務局

2021年度 学校評価のまとめ ～ こどもの森幼稚園 ～

1. 本年度の学校評価への取り組み

いいつな学園では、学校を運営する上での課題を明確にし、次年度の重点目標を設定するために、以下のとおり学校評価に取り組んでいます。

学校評価の流れ

2021年 3月	保護者アンケートの実施
2021年 3月	保護者アンケートを受けての自己評価 保護者に保護者アンケート結果を報告 評価者に保護者アンケート・内部評価を公表、外部関係者評価実施 評価方法:保護者・自己評価を受けての意見聞き取り及びアンケート調査
2022年 5月	理事会及び評議員会で内部評価及び外部関係者評価結果を報告 ホームページに外部関係者評価を掲示

2. 自己評価の結果について

保護者アンケートでは、いくつかの項目で評価が若干上昇しました。新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き少しずつ行事などの活動を行って、子どもの様子を直接保護者に見て頂ことができたことが大きいと思います。全体的に、教育方針についての理解や達成感の評価が低めとなっており、教育方針の根本的な部分について共通理解を図り、自然保育のスキルアップを図ることが必要と考えます。

3. 外部関係者評価の結果について

学識者からは、船体的に職員の指導内容について高評価をいただきました。

また、地域からは、指導や活動などについて高評価を頂きました。

例年、近隣での活動や近隣との交流の少なさが教職員間でも課題として挙がっています。

子どもの人数が減少傾向にある本地域において、今後も幼稚園として貢献できる活動を行っていく必要があると考えます。

4. 来年度への課題

今年度の評価結果を受け、来年度における課題として以下の点が挙げられます。

- ・先生たちが対話を通して、風通しの良い関係性を構築する。
- ・活動の目的意識を明確化し、共有していく。
- ・子ども達のためにできることを大人が考え伝え実践していく。

5. 来年度の重点事項

- ① 自然体験を中心においた教育の充実を図る
- ② SDGsを念頭に入れながら活動を行う
- ③ 園児、保護者及び教職員の個々の考えを大事にし、お互いの意見を尊重しながら、主体的・対話的により良い人間関係の構築を目指し、コミュニケーションの充実を図る

2021年度 こどもの森幼稚園評価シート

2020年度こどもの森幼稚園の学校評価は以下のとおりとなりました。

A:評価できる B:やや評価できる C:やや評価できない D:評価できない

※ 評価段階 : A > B > C > D

項目		評価			
		保護者	自己	関係者	
教育活動について	1	子ども達は、幼稚園を楽しみにしていると評価できる。	A	B+	A
	2	保護者は週のお便りやHP等で、園や子どもの様子がわかっていると評価できる。	B	B+	B+
	3	保護者は参観・懇談会やさまざまな行事などで、子どもの様子や育ちがよく理解できていると評価できる。	B+	B+	B+
	4	先生は、子どものことについての相談事に適切に対応していると評価できる。	B+	A	A
教育方針等について	5	保護者および教員は幼稚園の教育方針を知っていると評価できる。 「いのちを慈しみ いのちを育む」～自然の恵み・手づくりの愛情～	B+	B	A
	6	幼稚園は、様々な自然体験を通して、自然と人の絆を育め合える保育を提供していると評価できる。	B+	B	A
	7	今年度幼稚園は「①自然体験を中心においた教育の充実を図る」「②園児、保護者及び教職員の個々の考えを大事にし、お互いの意見を尊重しながら、主体的・対話的により良い人間関係の構築を目指す」ことができた」と評価できる	B	B	B
保育について	8	先生は、保護者とコミュニケーションを積極的に取りながら保育を行っている」と評価できる。	B	B+	B+
	9	子ども達は、元気に活動していると評価できる。	A	A	A
	10	幼稚園は、年齢別活動と年齢混合活動を取り入れて、子どもたちに思いやりの心を育てようとしている」と評価できる。	B+	B	A
	11	子どもは、幼稚園の絵本などの読み聞かせを楽しみにしていると評価できる。	B+	A	A
	12	先生は、子どもを理解し、子どもの性格や長所を把握して指導にあたっていると評価できる。	B+	B+	A
	13	先生たちは協力して教育活動にあたっていると評価できる。	B+	B	B+
外部評価者の意見	<p>幼稚園の前を通ると、先生のギターに合わせて歌ったり、楽しそうに走り回っている子どもたちの姿が見えます。先生方に見守られながら、子どもたちは五感を通して学び、自ら気づき、自然に動き、周りのことも見ているのでしょう。その中で子ども同士の関係性や、自然界で生きているものへの愛しみが育まれていることが評価されていると思います。また、親子で活動をする企画に参加することで交流や情報交換もでき、親御さんにとっても新鮮な発見を感じているのではないのでしょうか。親子共有の体験は、家族のコミュニケーションや、幼稚園が目指す世界をより理解できる場となっていくのではと思います。我が家も、30年ほど前、娘がお世話になり数々の体験や手作りを共有したことが、とても楽しく飯綱も好きになり、ここに住んでいます。最近でも、プレゼント用の手作り等に、少し関わらせていただきました。この場所での四季折々の自然体験は「楽しいことだけでなく時には忍耐も覚える大切な場になっていたよ」と大人になった娘が話してくれました。自然の中で子どもたちが感じて、考えて、行動する力をつけていく環境を作るのは、想像以上にエネルギーがいることと認識していますが、「こどもの森幼稚園」だからこその体験を通して、自然とも人と人ともを大切にしあえる、豊かな学びの場になっているのだと評価します。(幼稚園近隣在住 清水恵子氏)</p>				
	<p>訪問時の保育見学や保育者との意見交換、拝見した保護者アンケートと自己評価の内容からは、概ね肯定的な上記の評価となります。「概ね」と但し書きをつけ、「B」評価項目があるのは、行事等を直接拝見する機会がない中で、保護者から充実を求める声があり、自己評価でも課題とされているからです。コロナ禍の制約の中で園からの発信を評価する保護者が殆どですので、現状に大きな課題があるとも認識できませんが、ポートフォリオの記載の具体化やバス登園児の家庭への添乗者の発信内容など、今後の向上に期待しています。他方、自然体験という核心部分の高評価に関しては、こどもの森のフィールドが豊かであることが勿論最大の要因ですが、適切に手入れし、子どもの思いに丁寧に寄り添おうと関わる保育者の果たしている役割も大きいです。私の見学時の保育者の子どもへの距離感は心地よいものですし、そのことは保護者にも十分伝わっていると認識できるアンケート結果です。また、豊かな体験を保障されているからこそオペレッタでの自信と拘りを感じさせる個々の表現や、子ども同士の話し合いとその結果の保育者による尊重なども伺われる「かかし」制作など、年齢混合活動が多い自然体験の成果を年齢別活動で更に豊かなものにしていくカリキュラムと保育者の援助は素晴らしいです。絵本と自然物を大切にされている室内装飾などの気配りも素敵です。最後になりましたが、子どもの森には、保育者養成校の教員の立場から、学生に学んで欲しい実践がふんだんにあります。信州型自然保育の先駆園として、これまで同様保育を開き、私を含め多くの保育関係者が学び合える園であり続けて下さい。(東北文教大学 下村一彦先生)</p>				
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 先生たちが対話を通して、風通しの良い関係性を構築する。 活動の目的意識を明確化し、共有していく。 子ども達のためにできることを大人が考え伝え実践していく。 				
来年度の教育活動における重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ①自然体験を中心においた教育の充実を図る ②SDGsを念頭に入れながら活動を行う ③園児、保護者及び教職員の個々の考えを大事にし、お互いの意見を尊重しながら、主体的・対話的により良い人間関係の構築を目指し、コミュニケーションの充実を図る 				